

議長（竹島貴行君） 5番 山崎知信君。

5番（山崎知信君） おはようございます。山崎でございます。

私の質問は買い物弱者等の対策の質問ですが、第4次総合計画で、第1の柱に安心・安全な村づくり、また、日本一健康な村づくりと掲げていますが、12月の水道の断水事故、その対応としての回答では、「業者任せではいけない。役場の庁内、もしくは職員なりの監視体制で、できることは手前でやる。12月6日の断水事故を教訓に、以後ないように努める」といった12月の一般質問の回答の矢先に、先般の6月4日の断水、安心・安全な村づくりを掲げているのに2度の断水事故がありました。また、村民の方が「街灯が切れている」と職員に言ったところ、「おれの管轄ではない」といった返事。「この村にいるのが嫌になった」と住民の方がつぶやいておられました。

さて、人口減少に転じる中、高齢者数、65歳以上は年々増え続け、富山市では平成24年度11万178人、26年度は11万5,650人、2年間で約5,500人が多くなると推測しています。65歳以上の高齢者が人口に占める割合（高齢化率）は、平成26年には27.9%に達する見込みとなっております。

そんな高齢者が増え続ける中、最寄りの店まで500メートル以上の買い物難民が全国で910万人になると推測され、富山県でも推計で5万人もの人が買い物に苦労するのではないか、難民になるのではないかと思われまます。

そのような中、立山舟橋商工会では、「買い物たのまれ屋」が4月2日に立山町の「休んでかれや」に開設されました。会員登録が必要で、高齢者だけでなく、介護や育児で忙しい方も登録でき、電話で注文すると自宅まで商品を届けてくれ、手数料100円を支払う仕組みです。商品は、町内スーパー26店舗が取り扱う肉、魚、食料品の全般をはじめ、衣類や文具、クリーニングなども扱っております。

また同時に、4月2日より、千垣芦峯寺間でございますけれども、目で楽しむ買い物に対して、高齢者にワゴン車（15人乗り）の運行を開始しております。料金は、地鉄が立山町の委託を受け3年前から運行している路線バス、「ここバス」といいますけれども、その料金と同じで、年齢を問わず、大人200円、子ども100円となっております。また、富山市では、65歳以上の人には100円定期パスを発行。バス、電車、何に乗ろうと、市内ならどこまで行こうと100円です。

さて、舟橋村の買い物弱者に対してですが、あの南の商業施設ができていれば500メートル以上の買い物弱者が解消していると思いますが、いまだに何もしていないのが

現状です。村が許可を出しているのに業者任せ。副村長を中心とするプロジェクトが何の活動もなく、12月の回答では、今は休止中とのこと。村発展のためには、そんなことで、プロジェクトはどうするのでしょうか。やはり村長がトップセールスになって、早く実現してもらいたいものです。強く要望します。

今後舟橋村も高齢者が間違いなく増える中、買い物難民に対し、買い物サービス、目で見て買い物を楽しむ移動手段としてどう考えているのか。人口増もしかり、私の12月の人口増加計画の質問では、「非常に自然環境に恵まれているといった高い評価を受けている。だから、人口が増えるんだ」という答弁でございましたが、この回答だけではなかなか人口増にはならないのではないのでしょうか。

村の高齢者のサービスとしては、免許返納者に限り、月4,000円の補助があるだけ。このような現状では、あのつばやきの住民が多くなるのではないのでしょうか。

そのような気持ちを持つ住民が増えないよう、村存続のため、今後、高齢者に対し、どんな住民サービスが確実にできるのか、明快な回答を村長に伺います。

村長は先ほど、出馬表明に向け、住民が夢を持って、舟橋村は健康でいきいきとしていることを私は望んでいると答弁されましたけれども、今後その夢がどのような形であらわれて高齢者のために尽くされるのか、回答してもらいたいと思います。

以上でございます。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 5番山崎知信議員さんの買い物弱者についてのご質問にお答えいたします。

皆さんご存じのとおり、今、日本の社会として抱えているいろんな課題があるわけですが、そういった中の一つに少子高齢化の問題があります。少子高齢化ということが叫ばれてから、かなり長い年月がたっておるわけでありまして。今や高齢化社会よりもはるかかなたの超高齢化社会に突入しているのではないかと私は思っております。

そしてまた、65歳以上の人口、いわゆる高齢者の方が2,700万人に達しているということでございますので、4人で1人の高齢者を支えているというのが現状であります。さらに、25年後には国民全体の約3分の1が高齢者になるというふうな予測も、これは国の、厚生省の所管になっていくわけでありまして、人口問題研究所というのがございます。そういったところでデータを出しておるわけでありまして、このように日本は世界一の高齢者王国になっていると、それも現在進行形であるということでありま

す。

先ほど山崎議員さんが質問された趣旨はこういった背景からでありますけれども、こういった、いわゆる生活弱者という方に対応するためには、買い物支援のみでないと思っております。

と申し上げますのは、高齢者の方は、買い物ばかりでない、いろんな悩みを持っておられるわけでありまして。そういった悩みを解消できる環境づくりが私は最も大切だと思っております。

そういうことで、そういった皆さん方の、行政といいますか、我々に対する要望が何であるかという実態を把握すると。それも通り一遍のものでなくて、詳細にわたってそういった調査をし、まとめ上げるということが私は大切なことだと思っております。

そこで、現在、舟橋村でどのような、こういった買い物弱者といいますか、生活弱者に対して支援をしておるかということでございますが、これは社会福祉協議会にお願いしているわけでありまして、そういったことで、その事業の取り組み内容を申し上げますと、調理が困難な在宅高齢者の方々の居宅を訪問いたしまして、栄養のバランスのとれた食事の提供、健康の維持及び健康状態の把握、孤独感の解消、安否確認などを図ることを目的に、配食サービス「たべんまいけ」を実施しておいでになります。この事業は月に1回の実施でありまして、私は、これだけでは十分とは言えないと思っております。

一方、先ほど山崎議員さんがおっしゃったとおり、隣町の立山町では、商工会や地元業者による配食サービスに加えまして、衣類や文具など町内26商店から欲しい商品を電話で注文する買い物代行もあわせて実施されております。こういうことは、私は十分参考になる事例であると受けとめております。

しかしながら、生活弱者への支援を検討すると、事業化する上で最もかなめとなるものは、先ほど言いましたけれども、高齢者の皆さんにどのようなニーズがあるのかという、優先的にそういった把握をしてから事業化をするのが私は大切でないかと思っております。

具体的に言いますと、単に調理が困難なために配食サービスが欲しいのか、あるいはまたスーパーまでの交通手段としてそういったサービスが欲しいのか、あるいはまた買い物が困難なために希望の食材を買ってきてほしいという、そういったニーズなのか、そういったいろんな面があると思っております。そして、そのいろんなことによってその対応

策が異なってまいります。

そういった中での取り組みであります。私はそういった背景を考えたときに、舟橋村は、皆さんご存じのとおり、3.47平方キロの中に3,000人が住んでおられるわけがあります。ほかの町や市と違いまして、非常に立地環境はいいわけでありまして、そして、ほかの自治体と地域間格差といいますか、山間部とかそういうことはありませんので、非常にサービス提供がやりやすいということも考えておるわけでありまして。

そういった面から考えてみましても、くどいようですが、十分なニーズ調査というものが必要だと、こういうふうに思っております。今年度、あるいはまた来年度に向けて、そういった社会福祉協議会の方々とも十分相談いたしまして、こういった形でのニーズ調査が必要なのか検討してまいりたいと思っております。

そしてまた、先ほどおっしゃったスーパーの件、商業施設の出店の件でございますけれども、ご案内のとおり、横沢の信号機がありますけれども、なぜかといいますと、あそこの現状を、後からまた現地を見られる方もおいでになると思うんですが、去年はヒマワリで、ちょうどあそこの環境美化ということで、その出店用地のことでございますが、何といいますか、環境美化にも、ヒマワリを植えていただいて、種子をまいてヒマワリが咲いたということで非常に環境がよくなりまして、ことしはコスモスだということを知っておりますけれども、ちょうどあの信号機から中へ入るわけでありまして、そして、もちろんその頭にある土地は、立山町になるわけでありまして。そういった地理的な環境もあって、私もほかのところから聞かれまして、こういう構想であるんだと、協力していただけないかということも、ある金融機関と数日前に言ったんでありますが、まだ回答は来ておりません。

そういったことで、出店をあきらめているわけでもありません。要は、来たからには、短期間に撤退していただくとか、そういうことのないように、少なくとも20年、30年は営業活動していただけるということを想定しておるわけでありまして。

あんまり私は、こう言って先を急いで、後からトラブルにならないようにということも気をつけてもらわなくてはならないというふうに思っておりますので、いろいろと議員さんのおっしゃる趣旨はわかるのでありまして、全員協議会等でこの件につきましても皆さん方と意見交換をさせていただければ、機会をいただければ、私は非常にいいのではなからうかと思っております。要はなぜそういった出店ができないのかという、諸条件がどうなのかということをご理解いただく必要は、私は

あると思っております。それを隠すつもりは、私はありませんので、つぶさにお話をし
て皆さんと理解を共通していただきたいと、こういうふうに思っておるわけであり
ます。そういうこともご理解いただきたいということでもあります。

それで、改めてでございますが、そういった生活弱者への支援につきましては、本
当にそういった方々にふさわしい事業を、何と申しますか、速やかに検討してまいり
たいということを申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。

よろしく願い申し上げます。

議長（竹島貴行君） 山崎知信君。

5番（山崎知信君） 村長は、明快な回答をしてくれという私の質問に、社会福祉協
会の会長さんと相談して云々かんぬんということがございました。会長さんにはえら
く無理をかけますけれども、今後ともひとつよろしく願いして、私の再質問といたし
ます。

よろしく願いします。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 山崎議員さんのほうから温かいお言葉をいただきまして、あ
りがとうございます。

私のほうも、先ほど、立山町での取り組み状況を把握しておるわけであり
ます。それで、なぜニーズ把握が大切かということをおし上げておるわけ
であります。

現在、立山町の実施されておる状況を見ますと、該当するといひますか、世帯をい
いますと968世帯で、人員にいたしますと1,996人の方がおいでになるわけ
であります。現在登録されているのが39名であります。そしてまた、1日平均で利用
されておるのが、平成23年度、昨年度でございますが、20人の利用でとどま
っておるわけであります。

反省と私は言っておるわけではないんでありまして、そういった現状から行きます
と、本当に何が必要なのかということをはっきりとつかんでいかないと、スタート
した後に、こういうことをすればよかった、ああいうことをすればよかった、それ
はそれで見直しという時点でいいんですけれども、取り組む内容をきちんとしてい
くのが、事業化をするのが一番私はかなめだと思っておりますので、再度申し上げ
ますが、議員さんともよく相談いたしながらこの事業等に取り組んでまいる所存
でありますので、ご理解をまた改めてお願いいたします。